

よれば、のび率の限度、のびの状態、布目、編目の方向が考えられる。また、伸縮性のない布では動作の為に布の余裕（あそび）が必要である。このような機能性を充足させる資料を、体形との関連を求めつつ、そのうえで形態美に適合するよう実験考察を試みた。

2. 被験者は、体形の相違する5名を選び Arm Hole 位置における身体計測を詳細に行ない、それぞれのWaist 原型を作成し、Fitting の後 Kimono Sleeve の作図をし、天竺木綿にて Blouse を作製した。動作は上腕の側挙角度 45° , 60° , 70° で肩峰点、肘、腋窩部の位置における運動量及び袖つけ線、補足布の布目及び形態の変化を求めた。

3. (1)肩峰点位置では、布目及び腕の側挙角度が大きい程運動量のゆとりが多い。

(2)補足布つけの切り込み位置は、腋窩前縁、後縁にて腋窩部における補足布巾（上腕巾）が充足される程度の位置が望ましく、割り出しによる補足布の形態とFitting によって得られた形態との変化を見出し、袖つけ変化の基準となると思われる袖つけ線の試作について報告する。

C-22 身体の運動と被服構成（第3報） —上腕の動作と Kimono Sleeve の関連—

名古屋市立女短大	高橋	春子
東海学園女短大	西条	セツ
安城学園女短大	沢野	幸子
瑞穂短大	鈴木	昭子
	○岡	通子

1. 上腕の動作による Arm Hole の皮膚面の変化については、さきにストロボを使用して調べたが、今回は衣服を着用した場合を観察することとした。すなわち、袖つけ位置についてののびの状態は、伸縮性のある布に